

報告事項ク

松原田中遺跡出土の地中梁について

松原田中遺跡出土の地中梁について、別紙のとおり報告します。

平成30年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

松原田中遺跡出土の地中梁について

平成30年12月20日
文化財課

平成25年度に「鳥取西道路」改築事業に伴う松原田中遺跡（鳥取市松原）の発掘調査（※1）で出土した古墳時代前期（3世紀後半頃）の「地中梁」（※2）が、左右二本揃って出土したものは、弥生時代～古墳時代では全国で最長（※3）であることが分かりました。

その後の調査で、上記時代の「地中梁」は全国で数例しかないことも判明（※4）しています。

なお、12月22日（土）午後1時から3時まで、埋蔵文化財センター美和分室（鳥取市源太12、旧県立鳥取湖陵高等学校美和分校）で一般公開します。

※1 発掘調査は、公益財団法人鳥取県教育文化財団が実施しました。

※2 低湿地等の軟弱地盤地に、大きく過重がかかる高床建物等を建てる場合、不等沈下を防ぐ目的で地中に水平かつ平行に埋め込まれた梁材。この梁材に柱を落とし込んで固定する。

※3 全長は7.33mと7.22m。材はスギ。

※4 判明している例
ア 石川県金沢市大友西遺跡（一本のみ出土）
イ 石川県金沢市近岡遺跡（二本揃って出土）
ウ 新潟県佐渡市蔵王遺跡（二本揃って出土）

<参考>



松原田中遺跡出土の「地中梁」



「地中梁」への「柱」の落とし込み（固定）方法



「地中梁」をもとにした高床建物復元図

※復元CGの作成は、公立鳥取環境大学

浅川滋男研究室と宮本正崇氏